

## 2009 年度放射線化学若手の会 「夏の学校」 報告

2009 年度の放射線化学若手の会は 9 月 26 日から 28 日の日程で、早稲田大学鷺尾研究室の主催で開催された。

早稲田大学 鷺尾研究室 藤田晃宏氏の努力と類まれなる統率力により 講義とレクリエーションと飲み会とが絶妙なハーモニーを醸し出すすばらしい会であった。

放射線化学若手の会は、放射線化学に関連する研究をしている（あるいは興味がある）、「我こそは若手である」という人の集まりで、若手研究者の交流を活発にすること、「放射線化学」に関係する幅広い研究分野の大学生・大学院生・大学職員・企業研究者など若い人たちが、情報交換・勉強会などを通して放射線化学研究の発展を目指すことを目的としており、1978 年発足以来毎年行われてきた会であり今年で 32 回目を迎える伝統的な会である。私は平成 19 年から参加し今回で 3 回目となる。

本年度は、放射線化学討論会の行われた福井工業大学の附属施設である福井アカデミアホテルを会場として開催された。本施設は天然温泉が湧いていることで有名である。参加校は東京大学（勝村研究室）、群馬大学（松尾研究室）、大阪大学（田川研究室、吉田研究室）、早稲田大学（鷺尾研究室）、日本原子力研究開発機構、福井工業大学（砂川研究室）で参加人数は 32 名であった。講師は、早稲田大学理工学研究所の篠原邦夫先生、東京大学大学院工学系研究科の勝村庸介先生、福井工業大学工学研究科の砂川武義先生と非常にユニークなメンバーであった。

初日は放射線化学討論会を終えた後に開校式を行い、篠原邦夫先生より「放射線の生物作用 - 細胞致死作用の初期反応を中心に - 」と題して、御講義を行っていただいた。私の研究は放射線利用に関するものであるが、生物作用は非常に興味有る分野であるため、本講義を興味深く聞かせていただいた。その後懇親会を兼ねて研究室紹介を行い、お酒を飲みながら冗談を交えて終始、和やかな雰囲気終了した。

2 日目は早朝より福井県嶺南地域にある関西電力株式会社的美浜発電所へ見学に行った。移動時間は大学から約 2 時間かかったが発電所内部の見学は、近年なかなか立ち入ることもできないような場所を見せていただき非常に貴重な体験をした。

午後より福井県嶺北地域にある原子力環境監視センターへ行き環境モニタリング作業についての説明や施設の設備の見学を行った。夕食後、勝村庸介先生より「水の放射線分解 - 過去・現在・未来 - 」と題する講義が行われた。私は来年度より原子力関係への就職が決まっており、水を対象とした放射線化学の講義は大変勉強になった。講演後ポスターセッションが行われた。参加者は各自興味のあるポスターの前で話を聞き、発表者と活発な討論が繰り広げられた。その後、参加者全員によるポスター賞の投票が行われ、東京大学勝村研究室の熊谷友多氏の「シリカコロイドによる OH ラジカル捕捉の時間分解測定」が若手の会最優秀ポスター賞に決定した。私は 2 位であった。



集合写真 関西電力美浜発電所

最終日 3 日目は、砂川武義先生による「マイクロ波空洞法を用いた放射線化学の基礎・応用研究」と題しての熱い講義があった。その後閉校式へ移り無事本年度の夏の学校を閉校することができた。

以上のように本年度は放射線化学討論会の直後に若手の会が行われ、過密なスケジュールであったが早稲田大学鷺尾研究室のパワーにより無事終えることができた。御講義いただいた篠原先生、勝村先生、砂川先生には多くの知見を与えていただけたことに対し、この場を借りてお礼申し上げます。このような素晴らしい若手の会が続くことを願う。

(福井工業大学大学院工学研究科砂川研究室 田中健司)